**中学生部門　愛知県入選作品**

**「障害と友達」**

　　西尾市立幡豆中学校　三年

**黒部　航平**

　障害といってもいろいろあります。

　僕は自閉スペクトラム症とＡＤＤと診断されました。自閉スペクトラム症とは、人とのコミュニケーションが苦手・物事に強いこだわりがあるといった特徴をもつ発達障害の１つです。ＡＤＤは過去に使用されていた発達障害の診断名です。現在の診断基準では、ＡＤＨＤ（注意欠如・多動症）と呼ばれており、そのなかの不注意優勢型に該当すると言われています。

　僕と一緒に住んでいる祖父は昔、仕事で親指を切り落としてしまい、身体障害の手帳を持っているし母の祖父は、仕事でストレスと睡眠不足で躁うつ病になり、精神障害手帳を持っていました。

　僕は、母から、よくおそろしくめんどくさがり屋だといわれます。自分の好きなことは、すごく熱中して、調べたり、つくったりできるが、勉強や手伝いはやる気にならなくなります。

　保育園の時自分では覚えてないけど２度脱走したことがあって母が先生からの電話に出て、家をさがしたらこたつの中にいたみたいです。小学校の時１年生は、通常級だったが授業を抜け出し、ブランコや木のぼりをして遊んでいてよく教頭先生と話をしました。２、３年は特別支援級に行くことになった。そこは僕を含めて３人のクラスでした。そして、同じクラスになったせい君とよく遊んだ。せい君は首にギプスのようなものをはめていて僕より４つも学年が上の先輩だったが話しやすくて、ついため口になってしまいよく先生に注意されました。

　４、５年生では、通常級にもどりました。たくさんの友達がいて、やっぱり楽しかった。

　６年生ではまた、特別支援級になりました。５年生の時、勉強がついて行けてなかったのと当時は学年があれていて先生達も余裕がなかったからだと思いました。中学１年も環境がかわるからという理由で特別支援級になった。今回この作文を書くにあたって人とのつながりについて考えてみました。

　僕は小中と学校に通う中で小２、小３、小６、中１と、特別支援級を行ったり来たりしていました。その中で思ったのは、友達との関わりです。通常級では、たくさんの友達と一緒に過ごし、学校以外でも遊ぶことが多かったが、特別支援級では、３人から６人位しかおらず、学校以外では友達と遊ぶことが少なくなってしまった。遊びに行ったこともありましたが次に遊ぶ約束をしようと思って母に聞いたら相手の子のお母さんに何かあるといけないからと断られたこともあります。

　障害は人それぞれで、身体障害と知的障害もある子だったからしょうがないのかなと思ったけど本人は遊ぼうといってくれているのに遊びに行けないのがすごく悲しいです。

　家でゲーム１人でゲームすることが増えて、叔父さんに、オンラインゲームのやり方を教えてもらいましたその叔父さんのオンラインの友達とも遊ぶようになりました。その子は埼玉県の子で僕より２つ上の先輩で体が不自由で下半身が自分で思うように動かせずトイレも手伝ってもらわないと行けないそうです。でも、オンライン上のゲームやいろいろなことをすごくたくさん知っていてインターネットを通して友達をつくったり、遊んだり話したりできるんだということを知りました。

　今、僕は通常級で過ごし、少ないけど仲の良い友達もでき、学校以外でも遊びに行ったりしているけど、障害がない友達でも合わない子もいるし障害があるないで環境が変わって友達との出会の数は変わるけど自分から何かをすることによって出会の数は増えるんだなと思いました。

　これからも少しずついろいろなことに挑戦し心の輪を広げて行けたらと思います。